はなく、茨城県の東海村や岐阜県の瑞浪市など他の場所でも行われています。

伊藤　士温（いとう　しおん）

質問要旨　今、幌延では、公共交通機関の利用が難しくなっていると思います。

例えば、四月のＪＲのダイヤ編成で、稚内行きの列車の本数が六本になりました。そこでぼくは、車を所有していない人や、お年寄りの「足」として、町のバスを増やせばいいと思います。

答弁要旨　ＪＲ北海道の減便のほか、町内の高齢化などに伴う移動手段の対策は、以前から町議会や町内会長会議においても課題とされ、町としても対策を考えてきたところです。近年は、現行の患者輸送バスとスクールバスの利便性を高める対策をとってきましたが、今後さらに増えるであろう高齢者を予測した場合、そういった方々に対する「足」の確保は大きな課題と考えています。

現時点では、その対策は決まっていませんが、バスを増やすことも対策の一つだと思います。

しかし、町民の皆さんの税金で町政を運営しているため、運行にかかる費用に対し、どれだけ効果があるのか不透明であり、一概にバスの運行と言っても効果的な対策と言えるのか分からないのが現状です。

どういった公共交通対策が幌延町にとって効果的な対策と言えるのかを検討し、町民の皆さんがより生活しやすい町となるように力を尽くしてまいります。

佐藤　聖也（さとう　せいや）

質問要旨　こざくら荘で働く人が少なく、多忙すぎています。母もそこで仕事をしていますが、人がいないので負担が多いそうです。

たくさんの人に働いてもらう工夫を町ではどう考えていますか。

答弁要旨　こざくら荘の職員確保については、運営主体である幌延福祉会が対策しなければなりません。施設の運営は、経費を減らしつつ、安全で良いサービスを提供することが求められます。本年度、幌延福祉会では、人の確保や経費節減のため、給与改定などを実施した結果、経営状況の改善や新規職員の確保等に成果があったという報告を受けています。

しかしながら、まだ対策を始めたばかりですので、経営状況や人の確保の状況などをよくみていきながら、幌延福祉会とともに考えていきたいと思います。

また、介護職の人の確保については全国的な問題であり、本年度から北海道において介護職を目指す学生への貸付制度の拡充を行っています。

幌延町においても奨学資金の貸付制度を変更し、奨学資金を借りやすく、負担も少なくてすむようにしています。町としては、これらの制度を活用して介護施設での働き手の確保を図ろうしており、幌延福祉会への運営費なども支援しています。

佐藤　瞭（さとう　りょう）

質問要旨　深地層研究センターでの研究が終わったら、あの施設は残しておくのですか。残しておくなら、子どもから大人まで楽しめるような場所を増やしてほしいです。また、子どもがそこに行く手段がないので、バスを出すなど、子どもたちの行く手段を増やしたら、観光客がもっと増えると思います。

答弁要旨　幌延町に深地層研究センターをつくるとき、研究をしているところが、将来、放射性廃棄物の最終処分場になってしまうのではないかといった心配や不安を残さないよう、研究が終わった後には地上の研究施設については閉鎖し、地下施設は埋め戻すことを「北海道・幌延町・原子力機構」の三者で約束しています。この提案は夢があってとても良いとは思いますが、幌延町の町長として約束をきちん守ることはとても大切なことだと思っています。

ちなみに、この約束の中には、研究区域内に放射性廃棄物を持ち込まないことや幌延町を将来にわたって最終処分場や中間貯蔵施設としないことも併せて約束しています。

西澤　寛大（にしざわ　ひろと）

質問要旨　幌延町を活性化さ